

韓国人カミカゼ慰霊碑論争

※光復会・・・反日独立運動家の子孫らで作られている会

日本人俳優黒田、泗川に建立・・・光復会反対で撤去

日本の有名女優であり知韓派として知られる黒田福美(52)が28日ソウル新聞を訪ねた。黒田は記者とのインタビューで慶南泗川に建てた日本自殺特攻隊カミカゼ隊員であり、韓国人である卓庚鉉の慰霊碑に対しての思いを語った。

黒田「強制徴用された卓庚鉉の御霊を慰める」

黒田は卓庚鉉の故郷である泗川に慰霊碑建立を推進してきた。17年前のある日、「私は朝鮮人として太平洋戦争で日本名で死んだ」と無念をはらして欲しいという青年の夢を見たのがきっかけだった。黒田はカミカゼ関連の資料を調べ、彼が泗川市出身の25才で特攻隊員として沖縄海上で亡くなったことを知った。

後に慰霊碑を建ててあげたいと心に決めた黒田は昨年泗川市にこの意を伝えた。

泗川市も快く建立地を提供し、10日に慰霊碑除幕式を開催する予定であった。

しかし光復会と泗川市民団体が「卓庚鉉は日本の為に命を捧げた反民族的行為を行った者」と反対した。それにより除幕式は開催できず、慰霊碑は13日撤去された。黒田は「光復会などの意見も十分に尊重する」としたうえで「ただ敷地まで提供くださった泗川市が石碑を撤去してしまったというのは淋しい」と語った。

光復会「日本の上級軍人として崇められた・・・志願は間違いない」

卓庚鉉の慰霊碑をめぐる論争の核心は彼の立場をどう解釈するかだ。黒田は「卓庚鉉の遺族によると、彼は韓国に残した家族の立場を考えて徴集前に自ら入隊していった。彼の御霊はあわれにも日本名のままさまよっている」と語った。

一方光復会は「カミカゼは日本の上級軍人とされ、誰もがなれるものではない」として卓庚鉉は志願入隊であると主張している。

これに対し、泗川市は「日本政府の資料によれば、卓庚鉉は9才の時に日本へ渡り、医療専門学校を卒業するや、すぐに軍隊に志願したが、当時の状況下では純粋な志願と考えるのは難しい」とあいまいな説明だ。

泗川市は黒田の純粋な思いは認めるが石碑を再び建立するのは難しいとの立場だ。泗川市関係者は「ただ、石碑から卓庚鉉の名前を削除すれば再び議論の余地があると思う」と述べた。これに対して黒田は「前もって、石碑建立以前それを提案したことがあり、むしろ市側が名前を削除したのでは意味がないということだった」と言う。彼女は強制で徴集されたうえに亡くなった御霊を慰めたいという一心であり、妥協点を探し出したいと語った。